単位:mm

							コイルロ	<b>王</b> 李 ·	<b>十八</b> 0%			平177:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測定	項目	規	格 値	測定基準	測定箇所	摘要
7 河	1 堤	6 護岸	5		コンクリート被覆工	基準	高▽		±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は		7-1-6-5
川海岸編	防 · 護	岸工				法長0	ℓ<3m		-50	50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理	Q A STATE OF THE S	
編	岸					IAX.	ℓ≧3m		-100	要領 (案) 」の規定による測点の管理 方法を用いることができる。		
						厚さ t	t <100		-20	,	\	
						净货	t ≧100		-30		_ 2	
						裏込材厚	ī t'		-50			
						延	長 L		-200			
7 河	1 堤	8 天	2		コンクリート被覆工	基 準	高▽		±50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は 50m)につき1ヶ所、延長40m(又は		7-1-8-2
川海岸編	防 · 護	端被覆				幅	W		-50	50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。		
編	岸	工				厚	き t		-10			
						基礎	厚 t'		-45		/:/ t,	
						延	長 L		-200			ļ
				l		I						l

#### I -147

## 出来形管理基準及び規格値

								11米形官	生生	<u> 一人 ()</u>	NITH IE		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	涯	定	項目	規	格 値	測定基準	測定箇所	摘要
7 河	1 堤	9 波 返	3		波返工	差	集 準	高▽		±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は	W <sub>1</sub> W <sub>2</sub>	7-1-9-3
川海岸	防・	工				ψį	ii ii	$\mathbf{w}_{1\text{, }}\mathbf{w}_{2}$		-30	50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。		
編	護岸							h < 3m n <sub>2</sub> , h <sub>3</sub>		-50		$\begin{array}{c c} h_1 \\ \hline \end{array}$	
								h≧3m 1 2 , h 3		-100			
						延	E	長 L		-200			
											1		
7	2	4	4		捨石工		本	均し		±50	施工延長10mにつき、1測点当たり5		7-2-4-4
河川	突堤	突堤						表面均し		±100	点以上測定。	2 3 4	
海岸編	・人工岬	基礎工				基	荒	異形ブロッ ク据付面 (乱積) の 高さ		±500		①	
						<b>準</b>	均し	異形ブロッ ク据付面 (乱積) 以 外の高さ		±300		Q Q	
						$\nabla$	被覆	異形ブロッ ク据付面 (乱積) の 高さ		±500		<u> </u>	
							均し			±300			
						ì	去	長 0		-100	幅は施工延長40m (測点間隔25mの 場合は50m) につき1ヶ所、延長		
						7	三 端	幅 W1		-100	40m (又は50m) 以下のものは1施工 箇所につき2ヶ所、延長はセンターラ		
						7	下端 延	長 L <sub>1</sub>		-200	イン及び表裏法肩。		

単位:mm

							щ	1米形官	工生	十人	O'N	CID IE		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	浿	定	項目	規	格	値	測定基準	測定箇所	摘要
7河川海岸編	2 突堤・人工岬	4 突堤基礎工	5		吸出し防止工	超		w 長 L		-300 -500		施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。	L	7-2-4-5
7河川海岸編	2 突堤・人工岬	5 突堤本体工	2		捨石工		据付证 異形 据付证 以外 法 端 !	デブロック 面 (乱積) の高さ デブロック 面 (乱高) 外の高さ 長 & 幅 W <sub>1</sub>		±300 ±300 -100 -100 -200		施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。 幅は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所、延長はセンターライン及び表裏法肩。	② ③ ④ ① ① w <sub>1</sub> . (L <sub>1</sub> ) ②	7-2-5-2
7河川海岸編	2 突堤・人工岬	5 突堤本体工	5		海岸コンクリートブロックエ				±ブロ さの1 ーブロ さの1	1 ックの/2	)高	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。延長は、センターラインで行う。	L L	7-2-5-5

I -149

## 出来形管理基準及び規格値

							田木ルロ	生を牛及いる	CTO IIE		平177:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測	定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
7 河	2 突	5 突	9		石砕工	基	準 高 ▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は		7-2-5-9
海岸	堤・人	堤本体				厚	ŧ t	-50	50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。	t ├─┤	
編	八工岬	I				高さ	h < 3 m	-50			
						h	h≧3m	-100		h X	
						延	長 L	-200	1 施工箇所毎		
7 河	2 突 堤	5 突 堤	10		場所打コンクリートエ	基	準 高 ▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は	W	7-2-5-10
川海岸編	堤 ・人	堤本体				幅	w	-30	50m) 以下のものは1 施工箇所につき 2ヶ所。	h T	
編	八工岬	I				高	さ h	-30		D*CD*C	
						延	長 L	-200			

単位:mm

						田木ル日	理奉华及び及	/C1ロ II으		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
7河川海岸編	2 突堤・人	5 突堤本体	11	1	ケーソンエ (ケーソン工製作)	バラス 砕石、砂	±100	各室中央部1ヶ所		7-2-5-11
編	岬	エ				選準高 コンクリート	±50		$h_1$	
						壁 厚 t <sub>1</sub>	±10	底版完成時、各壁1ヶ所	$\begin{array}{c c} & t_2 & t_2 \\ \hline \end{array}$	
						幅 w	+30, -10	各層完成時に中央部及び底版と天端は 両端	tı	
						高 さ h <sub>1</sub>	+30, -10	完成時、四隅		
						長 さ L	+30, -10	各層完成時に中央部及び底版と天端は 両端		
						底版厚さ t <sub>2</sub>	+30, -10	底版完成時、各室中央部1ヶ所		
						フーチング高さ h <sub>2</sub>	+30, -10	底版完成時、四隅	L 1	
7河川海岸	2 突堤・	5 突堤本	11	2	ケーソンエ (ケーソン工据付)	法線に対する出入	ケーソン重量 2000 t 未満 ±100	据付完了後、両端2ヶ所	1'	7-2-5-11
岸編	人工岬	体工				1, 2	ケーソン重量 2000 t 以上 ±150			
						据付目地間隔	ケーソン重量 2000 t 未満 100以下	据付完了後、天端2ヶ所	H 2'	
						1', 2'	ケーソン重量 2000 t 以上 200以下			

I -151

#### 出来形管理基準及び規格値

							四个心日:	埋基準及びた	尤作但		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測	定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
7 河 川	2 突 堤	5 突 堤	11	3	ケーソンエ (突堤上部工)	基準	陸上	±30	1室につき1ヶ所(中心)	w ••••••••••••••••••••••••••••••••••••	7-2-5-11
海岸編	· 人 工	本体工			場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	高▽	水中	±50		L .	
	岬					厚	t څ t	±30		▼ ▼ ↓ t	
						幅	s w	±30		<b>1</b> 1	
						長	: さ L	±30		<u> </u>	
7 河	2 突	5 突	12	1	セルラーエ	壁	厚 t	±10	型枠取外し後全数	. w . t t	7-2-5-12
海岸	堤 · 人	堤本体			(セルラー工製作)	幅	i w	+20, -10			
編	工岬	Ï				高	i à h	+20, -10		h LL	
						長	: åL	+20, -10		t	
										t t	
7 河 川	2 突堤	5 突 堤	12	2	セルラー工 (セルラー工据付)	ă	法線に対する 出入1、2	±50	据付後プロック1個に2ヶ所(各段 毎)	1,	7-2-5-12
海岸編	· 人 工	本体工					接ブロックと 間隔1'、2'	50以下		21	
	岬									H <sub>2</sub>	
7 河 川	2 突 堤	5 突 堤	12	3	セルラー工 (突堤上部工)	基準	陸 上	±30	1室につき1ヶ所(中心)	W	7-2-5-12
海岸	. 人	本体			場所打コンクリート 海岸コンクリートブ	高▽	水中	±50		<u> </u>	
編	工岬	工			ロック	厚	i き t	±30			
						幅	i w	±30			
						長	: さ L	±30		\ \frac{\nabla \nabla}{\tau \tau \tau} \rightarrow t	
										T T	

単位:mm

								山木形官	<b>T</b>	<u> </u>	O'N			単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測	定	項目	規	格	値	測定基準	測定箇所	摘要
7河川海岸	2 突堤・人	6根固め工	2		捨石工	基準		プロック据付面 L積) の高さ		±500		施工延長10mにつき、1 測点当たり 5 点以上測定。		7-2-6-2
編	八工岬					高▽		プロック据付面 ⑤ 以外の高さ		±300			l Andre	
						i	法	長0		-100		幅は施工延長40m (測点間隔25mの 場合は50m) につき1ヶ所、延長		
						3	天 站	端 幅w		-100		40m (又は50m) 以下のものは 1 施工 箇所につき 2 ヶ所、延長はセンターラ イン及び表裏法肩。		
						3	天端	延長L		-200		イン及び衣装伝用。		
7 河 川	2 突 堤	6 根固	3		根固めブロック工	基準		層積		±300		施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき	Lı	7-2-6-3
海岸	人	か エ				高▽	:	乱積	:	± t /2	2	2ヶ所。		
編	川岬					J.	孠	さ t		-20		幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。		
						幅		層 積		-20				
						W <sub>1</sub> W <sub>2</sub>	:	乱 積		− t /:	2			
						延長		層 積		-200		1 施工箇所毎		
						L <sub>2</sub>		乱 積		- t /2	2			
7 河 川	2 突 堤	7 消 波	3		消波プロック工	基準		層積		±300		施工延長40m(測点間隔25mの場合は 50m)につき1ヶ所。延長40m(又は 50m)以下のものは1施工箇所につき	L <sub>1</sub>	7-2-7-3
海岸編	人工	エ				高▽	:	乱積	:	± t /2	2	2ヶ所。		
補	岬					厚		ð t		-20		幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。		
						ψ	i	$\mathbf{w}_{1}$ , $\mathbf{w}_{2}$		-20				
						延	£	₹ L <sub>1,</sub> L <sub>2</sub>		-200			1	

I -153

## 出来形管理基準及び規格値

								1 木 形 官	生坐:	+ X U /			単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測	定	項目	規	格 値	測定基準	測定箇所	摘要
7 河	3 海	3 海域	3		捨石工		本	均し		±50	施工延長10mにつき、1測点当たり5 点以上測定。		7-3-3-3
川海岸編	域堤防(人工	域堤基礎工					荒均し	異形ブロッ ク据付面 (乱積)の 高さ		±500		0 5	
	エリーフ 、離					基準高▽		異形ブロッ ク据付面 (乱積)以外 の高さ		±300		Q (L 1 )	
	岸堤 (潜堤)						被覆均	異形ブロッ ク据付面 (乱積)の 高さ		±500		<u> </u>	
	**						١	異形ブロッ ク据付面 (乱積)以外 の高さ		±300			
						,	法	長0		-100	幅は施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m		
							天 端	幅w <sub>1</sub>		-100	(又は50m) 以下のものは1施工箇所 につき2ヶ所、延長はセンターライン		
						3	天端列	Ĕ長L₁		-200	及び表裏法肩。		
8 砂防編	1砂防堰堤	3工場製作工	4		鋼製堰堤仮設材製作工	部材	部杉	才長ℓ(m)		ℓ≤10 ℓ>10	図面の寸法表示箇所で測定。		8-1-3-4

単位:mm

							H	3年季年及び	20 TH III		平1½:mm
編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
8 砂防編	1 砂防堰	8 コンク	4		コンクリー 工	卜堰堤本体	基 準 高 ▽	±30	図面の表示箇所で測定。	L <sub>1</sub> w <sub>1</sub>	8-1-8-4
柳	堤	リート堰					天端部 W <sub>1,</sub> W <sub>3</sub> 堤 幅 W <sub>2</sub>	-30		$\begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	
		堤工					水通しの幅 01,02	±50			
							堤 長 L <sub>1,</sub> L <sub>2</sub>	-100		L <sub>2</sub> w <sub>2</sub>	
8 砂 防	1 砂 防	8 コン	6		コンクリー	ト側壁工	基 準 高 ▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所を測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、		8-1-8-6
編	堰堤	ク リ 					幅 W <sub>1</sub> , W <sub>2</sub>	-30	天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。	L w1	
		ト堰堤					長 さ L	-100	3. 長さは、天端中心線の水平延 長、又は、測点に直角な水平延長を測 定。		
		エ									
										W2	

#### I -155

#### 出来形管理基準及び規格値

							山米形官:	埋基準及ひが	7.恰但		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測	定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
8 砂	1 砂	8 ==	8		水叩工	差	集 準 高 ▽	±30	基準高、幅、延長は図面に表示してあ る箇所で測定。	L L	8-1-8-8
防編	防堰堤	ン ク リ				ΦĒ	i w	-100	厚さは目地及びその中間点で測定。	t D	
	ŊΕ					厚	Ιέt	-30			
		堰 堤				延	長 L	-100			
		Τ.									
										w	
8砂	1砂	9	5	1	鋼製堰堤本体工		堤高▽	±50	1. 図面の表示箇所で測定する。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤	Wi	8-1-9-5
防編	防 堰 堤	製堰堤			(不透過型)	水通	長 さ 01,02	±100	高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。	$\left  \begin{array}{c} 01 \\ \hline 02 \end{array} \right  / \begin{array}{c} 01 \\ \hline \end{array} \right  $ $\left  \begin{array}{c} 01 \\ \hline \end{array} \right $ $\left  \begin{array}{c} 01 \\ \hline \end{array} \right $	
	ИE	工				・部	幅 W <sub>1</sub> , W <sub>3</sub>	±50		H <sub>2</sub>	
							下流側倒れ△	±0.02H1			
							袖高 ▽	±50		$ _{W_2} _{\overline{\Delta}}$	
						袖	幅 W <sub>2</sub>	±50			
						部	下流側倒れ△	±0.02H2			

単位:mm

							山米形官	<b>生坐</b> -	<b>十八</b> 0	ושעי			単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測	主項 目	規	格値		測定基準	測定箇所	摘要
8 砂吐	1砂	9 鋼	5	2	鋼製堰堤本体工	堤	長 L		±50	図	図面の寸法表示箇所で測定。	L	8-1-9-5
防編	防堰堤	製堰堤			(透過型)	堤	長 0		±10			h h	
	%E	工				堤	幅 W		±30			h h H	
						堤	幅 w		±10			In In I	
						高	さ H		±10				
						高	ð h		±10		L	h	
											H h h	H W W P I	
											H	h H	
					(次頁に続く)						H LLLLLLLLLLLLLLLLLLLLLLLLLLLLLLLLLLLL		

I —157

出来形管理基準及び規格	店

編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
8 砂防編	1 砂防堰堤	9鋼製堰堤工	5	2					H W W H W H	H L H	

単位:mm

									出来形	/ 目 巧	E 奉	年及(	ሶኦን	<b>元恰但</b>		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工	種	浿	11 7	定項目		規	格(	直	測定基準	測定箇所	摘要
8 砂防	1 砂 防	9 鉄製	6		鋼製側壁工		块		高▽			±50		1. 図面に表示してある箇所で測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤 高、幅、袖高は+の規格値は適用しな		8-1-9-6
編	堰堤	堰堤					£	군	ð L	,		±100		V <b>`</b> ₀		
		工					ф	幅	W1, W2			±50			A UTT	
							Т	下流	側倒れ △		±	0.02H				
						·	高さ		$h\!<\!3m$			-50			W <sub>2</sub> Δ	
							h		$h {\ge} 3 m$			-100				
8 砂	2 流 路	5 床	8		魚道工		基	<u>ţ</u> ?	準 高 ▽	7		±30		施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき		8-2-5-8
防編	路	固め工					幅	Ē	w	7		-30		50m   以下のものは1 施工箇所につさ   2ヶ所。	t <sub>1</sub> w t <sub>2</sub>	
							店	Ħ	き h <sub>1</sub> , h <sub>2</sub>	2		-30			<b>↑</b>	
							厚	Į	් t₁, t₂	2		-20			$h_1$ $h_2$	
							延	£	長 L			-200				
															<u>*</u> L	
8 砂 防	3 斜 面	6 山腹	4		山腹明暗渠工		基	<u>ţ</u> }	準 高 ▽	7		±30		施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき		8-3-6-4
編	対策	水路					厚	Į.	さ t <sub>1</sub> , t <sub>2</sub>	2		-20		2ヶ所。	$h_2$	
	710	Ĩ					幅	Ē	w	7		-30				
							幅	Ħ	W <sub>1</sub> , W <sub>2</sub>	2		-50			IIĀII IIĀII	
							启	Ħ	き h <sub>1</sub> , h <sub>2</sub>	2		-30			hs	
							深	ž.	à h∶	3		-30			W <sub>2</sub>	
							延	E	長 L			-200			W <sub>1</sub>	

I -159

## 出来形管理基準及び規格値

編     章     節     条     枝番     工     種     測定項目     規格値     測定基準       8     3     7     4     集排水ボーリングエ     削孔深さ ℓ     設計値以上     全数       防防面     下線     排     床     上     配置誤差 d     100	測定箇所 摘要 8-3-7-4
砂   斜   地   前 孔深さ ℓ   設計値以上	d y θ
策 排 100	
エ せん孔方向 θ ±2.5度	H x
	$d = \sqrt{X^2 + y^2}$
8 3 7 5 集水井工 基 準 高 ▽ ±50 全数測定。 一部	d w 8-3-7-5
編 対 水 策 排 除	
展 さ L -100	
巻立て幅 w -50	x
巻立て厚さ t —30	1 - \( \frac{2}{2} \)
	$d = \sqrt{X^2 + y^2}$
8 3 9 6 合成杭工 全数測定。	8-3-9-6
砂   斜   抑   基 準 高 ▽	
編 対 杭 策 エ 偏 心 量 d D/4以内かつ 100以内	

単位:mm

								山 不 心 日 .	生生	<u> </u>	J /9			平17.: mm
編	章	節	条	枝番	工	種	測	直項目	規	格	値	測定基準	測定箇所	摘要
9 <i>ý</i>	1 ==	4 ダ			コンクリー	-トダムエ	天 站	帯 高 ▽		±20		1. 図面の寸法表示箇所で測定。	天端幅	9-1-4
ム編	ンク	ムコ			(本体)		天	端幅		±20		2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。	Ħ	
	     	ンクリ					ジョイ	イント間隔		±30		①天端高 (越流部堤頂高を含む) は、各ジョイントについて測定。		
	ダム	Ĺ  -					y =	ァト高		±50		②堤幅、リフト高は、各ジョイント について5リフトごとに測定。	堤幅	
		I					堤	幅	ï	30, +5	50	(注) 堤幅、リフト高の測定は、上下 流面型枠と水平打継目の接触部とす	181 181	
							堤	長		-100		る。(堤幅は、中心線又は、基準線 との関係づけも含む) ③ジョイント間隔(横継目)は、5	堤幅	
								ļ				リフトごと上流端、下流端を対象に測定。	堤長	
												④堤長は、天端中心線延長を測定。	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	
								ļ				3. ①越流堤頂部、天端仕上げなどの平		
												坦性の測定方法は、監督員の指示に よる。		
								ļ				②監査廊の敷高、幅、高さ、平坦性 などの測定方法は監督員の指示に よる。	ジョイント間隔	
												. v v v	J:ジョイント	

## I -161

# 出来形管理基準及び規格値

							山木形官	埋基準及びた	<b>元</b> 俗但		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工 種	Î	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
9 ダ	1 =	4 4			コンクリートダム	·Ι	天 端 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所で測定。		9-1-4
ム編	クリ	ムコン			(水叩)		ジョイント間隔	±30	2. 上記以外の測定箇所は、下記を標 準とする。		
	-	クリ					幅	±40	①天端高(敷高)、ジョイント間は各 ジョイント、各測点の交点部を測定。		
	ダム	7 — `					長 き	-100, +60	②長さは、各ジョイントごとに測定。 ③幅は、各測点ごとに測定。	n <del></del>	
		I							3. 水叩の平坦性の測定は監督員の指示による。		
										図点   図点   測点   測点   測点   測点   測点   測点	

単位: mm

							ь	1 V 112 E	空 本 年 及 い 🧎	元1日 112		単位:mm
編	章	節	条	枝番	I	種	測定	項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
9 \$	1 =	4 4			コンクリー	トダムエ	天 端	高▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所で測定。	又	9-1-4
ム 編	クリ	ムコン			(副ダム)		ジョイン	/ト間隔	±30	2. 上記以外の測定箇所は、下記を標 準とする。	堤幅	
		クリ					リフ	ト高	±50	①天端高は、各ジョイントごとに測 定。	リフト高 堤幅	
	ダム	  -					堤	幅	-30, +50	②堤幅、リフト高は、各ジョイントに ついて3リフトごとに測定。		
		工					堤	長	±40	(注) 堤幅、リフト高の測定は、上 下流面型枠と水平打継目の接触部 とする。(堤幅は、中心線又は、	堤長	
										基準線との関係づけも含む) ③ジョイント間隔は、3リフトごと上		
										流端、下流端を対象に測定。 ④堤長は、各測点ごとに測定。		
											堤長	
											測点	
											<u>測点</u> 規点	
											曜 測点	
											<u> </u>	
											堤長	
											J:ジョイント	

I -163

## 出来形管理基準及び規格値

							四个沙丘	垤苤华及	0.19			単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測	定項目	規格	値	測定基準	測定箇所	摘要
9 ダ ム	1 コ ン	4 ダ ム			コンクリートダム! (導流壁)	天	端高▽	±30		1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標	天蠟幅	9-1-4
編	クリー	コン			(47001)	ジョ	イント間隔	±20		準とする。 ①天端高、天端幅は、各測点、又はジ	厚さ	
	トダ	クリー				y	フト高	±50		ョイントごとに測定。 ②リフト高、厚さは、各測点、又はジョイントについて3リフトごとに測	極人	
	A	トエ				長	ŧ	±100		定。 (注) リフト高、厚さの測定は、	厚さ	
						厚	ż	±20		前面、背面型枠設置後からとする。 なお、リフト高、厚さの測定箇所 は、前面背面型枠と水平打継目の接		
										触部とする。 ③長さは、天端中心線の水平延長又 は、測点に直角な水平延長を測定。	(副ダム部)   一瀬点   瀬底   瀬底   八本中部)	

単位:mm

						田木が旨	埋基华及びた	지기다 II으		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
9 ダ ム	2 フ ィ	4 盛 立	5		コアの盛立	基準高▽	設計値以上	各測点について5層毎に測定。 ※外側境界線は標準機種(タンピングローラ)の場合		9-2-4-5
編	ルダ	工				外侧境界線	-0, +500	.,	C	
	۵		6		フィルターの盛立	基 準 高 ▽	-0	各測点について5層毎に測定。	€ - フィルター	9-2-4-6
						外側境界線	-0, +1000			
						盛立幅	-0, +1000		ロック	
			7		ロックの盛立	基 準 高 ▽	-100	各測点について盛立5m毎に測定。	コア	9-2-4-7
						外侧境界線	-0, +2000			
9 ダ ム	2 フ ィ				フィルダム (洪水吐)	基 準 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 1回/1施工箇所	. w	9-2
編	ルダム				(投小吐)	ジョイント間隔	±30			
						厚 さ t	±20		→ _   \	
						幅 W	±40			
						リフト高さ	±20		ジョイント間隔	
						長 さ L	±100			
9 ダム編	3基礎グ	3ボー:			ボーリングエ	深 度 L	設計値以上	ボーリング工毎 ※配置位置の規定はコンクリート面で 行うカーテングラウトに適用する。		9-3-3
7,980	クラウチ	リングエ				配置誤差	100		L	
	ング									

I -165

#### **出来形管理其淮及八相**格值

								出	<b>米</b> 形官	埋基	準及び	・現	格値		単位:mm
編	ኯ	節	条	枝番	工種		測	定項	į B	規	格値	Ĩ	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	1 道路改良	3工場製作工	2		遮音壁支柱製作工	部本	ŧ.	部材長	0 (m)		$3 \cdots \ell \leq 10$ $4 \cdots \ell > 10$		図面の寸法表示箇所で測定。		10-1-3-2
10 道路	1 道路	9 カルバ	6		場所打函渠工			準 声 さt <sub>1</sub> 〜			±30 -20		両端、施工継手及び図面の寸法表示箇 所で測定。	t <sub>1</sub> w t <sub>2</sub> L	10-1-9-6
編	改良	  -				-		(内法)			-30				
		工				-	高		S h	ļ	±30			t <sub>4</sub>	
						延長.	-		20m	<u> </u>	-50				
10	1	11	4		落石防止網工	L	幅	L≤	20m w	<u> </u>	-100 -200		1 施工箇所毎		10-1-11-4
道路	道路	落石				+-	延	Į.	- W - L		-200				
編	改良	雪害防					~=								
10 道路編	1 道路改良	11落石雪害防	5		落石防護柵工		高	ŧ	h		±30		施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所 につき2ヶ所。	L L	10-1-11-5
		止工					延	長	L		-200		1 施工箇所毎		
					this cut in one								(In 1997)	WENT MELTINGS	
10 道 路 編	1道路改立	11 落石雪電	6		防雪柵工		高	đ	h		±30		施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所 につき2ヶ所。		10-1-11-6
	良	害防止					延	長	L		-200		1 施工箇所毎	*	
		Ţ				基磷	<u> </u>		1, W 2		-30		基礎 1 基毎	dat Ma	
					-		高	≛ h		-30					
														W <sub>1</sub> W <sub>2</sub>	

							Ц	1米形官	生坐	半及り	<b>,</b> Ууг	11 II I		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	浿	〕定	項目	規	格値	Ĩ	測定基準	測定箇所	摘要
10 道 路 編	1 道路改良	11 落石雪害吐	7		雪崩予防柵工	i	高	さ h		±30	ŀ	施工延長40m(測点間隔25mの場合は 50m)につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇所 につき2ヶ所。		10-1-11-7
		防止工				3	延	長L		-200		1 施工箇所毎		
						基礎	φi	<b>∄</b> W 1, W 2		-30		基礎 1 基毎		
						W.C.	ř	高 さh		-30				
						アンカ	4	打込み0		-10%		全数	W1 W2	
						 長 0	į	埋込み0		-5%				
10 道 路	1 道 路	12 遮音	4		遮音壁基礎工	幅	Ē	W		-30		施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、施工延長40m	<u> </u>	10-1-12-4
編	改良	壁工				唐	145	さ h		-30		(又は50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 ヶ所。	h	
						延	Ē	長 L		-200		1 施工箇所毎		
10 道 路	1 道 路	12 遮音壁	5		遮音壁本体工		間	隔w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>		±15		施工延長 5 スパンにつき 1 ヶ所	, L	10-1-12-5
編	改良	壁工				支	ず	ħа		10			d   w <sub>1</sub>	
						柱	ねし	これ b − c		5				
							倒	ħd	h	×0.5%				
						i	高	さ h	+;	30, -20			<del>─────</del> * ┆ <del>╇</del> ╾╇╺	
						3	延	長L		-200		1 施工箇所毎	ь	

I -167

# 出来形管理基準及び規格値

											- 1 20 73611			
										規格	F値			
絲	iii	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	個々の ()		10個の測定値 の平均(X <sub>10</sub> )	測定基準	測 定 箇 所	摘要
									中規模以上	小規模 以上	中規模以上			
1 道	鱼	2 舗 装	4 舗 装			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工		基準高▽	±	50	_	基準高は片側延長40m毎に1ヶ所の 割で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1ヶ所	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積 が2000㎡以上とする。	10-2-4
額	Ħ		I					t < 厚 15cm	-:	30	-10	掘り起こして測定。 幅は、片側延長80m毎に1ヶ所測定。	小規模とは、表層及び基層の加熱ア スファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2000㎡未満。	
								t ≧ 15cm		45	-15	※両端部2点で測定する。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以 上の割合で規格値を満足しなければな	
								幅	-1	00	_	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理 方法を用いることができる。	らないとともに、10個の測定値の平均 値 (X10) について満足しなければな らない。ただし、厚さのデータ数が	
													10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。	

							Ĺ	5米形	官理委	と 準及い規格	引电		単位:mm
									規格	<b>}値</b>			
編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	個々の (2		10個の測定値 の平均(X <sub>10</sub> )	測 定 基 準	測定箇所	摘要
								中規模以上	小規模 以上	中規模以上			
10 道	2 舗	4 舗			歩道舗装工 取合舗装工		基準高▽	±	30	_	基準高は片側延長40m毎に1ヶ所の割 で測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積	10-2-4
路編	装	装工			路肩舗装工 表層工		厚き	_	-9	-3	幅は、片側延長80m毎に1ヶ所の割で 測定。厚さは、片側延長200m毎に	小規模とは、表層及び基層の加熱アス	
					201		幅	-	25	_	1ヶ所コアーを採取して測定。	ファルト混合物の総使用量が500 t 未満 あるいは施工面積が2000㎡未満。厚さ	
											「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(業)」の規定による測点の管理 方法を用いることができる。	は、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	

I -169

#### **出来形管理其淮及八相**格值

									二米	形官	埋垫:	準が	えいガ	見格値		単位:mm
編	章	節	条	枝番	エ	種	測	定	項	目	規	格	値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	2舗装	5排水構造物工	9		排水性舗装用工	用路肩排水	基	準	高	$\nabla$		±30		施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。 なお、従来管理のほかに「3次元計測 技術を用いた出来形管理要領(案)」 の規定による測点の管理方法 を用いることができる。		10-2-5-9
							延		長	L		-200		1ヶ所/1施工箇所 なお、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」 の規定による測点の管理方法 を用いることができる。		
10 道	2 舗	7 踏	4		踏掛版工		基	準	高	$\nabla$		±20		1ヶ所/1踏掛版		10-2-7-4
路編	装	掛版工			(コンクリー	- ト工)	各	部の	の厚	ż		±20		1ヶ所/1踏掛版		
							各	部の	の長	ż		±30		1ヶ所/1踏掛版		
					(ラバーシ=	ı—)	各	部の	の長	ð.		±20		全数		
							厚			ż		_				
					(アンカーカ	ドルト)	中	心	<b>のず</b>	ħ		±20	1	全数		
							ア	ンフ	カ ー	長		±20	1	全数		
10 道 路	2 舗 装	9 標	4	1	大型標識工	F)	幅		w <sub>1</sub> ,	$\mathbf{w}_2$		-30		基礎一基毎	₩1	10-2-9-4
編	表	識工			(標識基礎)	L <i>)</i>	高		ż	h		-30			$w_2$	
															w <sub>2</sub> h	

単位:mm

						田木ル日	空 本 年 及 い な	CTO IE		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	2舗装	9標識工	4	2	大型標識工 (標識柱工)	設置高さ H	設計値以上	1ヶ所∕1基	н	10-2-9-4
10 道 路 編	2 舗 装	12 道路付属	5	1	ケーブル配管工	埋 設 深 t 延 長 L	0∼+50 -200	接続部間毎に1ヶ所 接続部間毎で全数	//5//5///5// G_ t	10-2-12-5
		属施設工							接続部 接続部 (地上機器部)	
10 道路編	2 舗 装	12 道路付属施設工	5	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	基 準 高 $\nabla$ ※厚さ $t_1 \sim t_5$ ※幅 $w_1, w_2$ ※高さ $h_1, h_2$	±30 -20 -30 -30	1ヶ所毎 ※印は、現場打ちのある場合	t 3 w <sub>1</sub> t <sub>2</sub> t <sub>3</sub> t <sub>4</sub> t <sub>4</sub> t <sub>4</sub> t <sub>4</sub> t <sub>4</sub> t <sub>5</sub> t <sub>5</sub>	10-2-12-5

I -171

# 出来形管理基準及び規格値

									- I							1 122 1 1
編	章	節	条	枝番	エ	種	測	定「	目	規	格	値	測定基準	測定	音 箇 所	摘要
10 道路編	2 舗 装	12 道路:	6		照明工 (照明柱基码	遊工)	幅		w		-30		1ヶ所/1施工箇所	w	w _	10-2-12-6
編		付属施設				•	高	ć	h		-30			0		
		設工												h A		

単位:mm

								出来形管	理基华,	及い坊	2.恰但		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	涯	定	項目	規格	値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	3橋梁下部	3 工場製作工	3		鋼製橋脚製作工			とベースプ トの鉛直度 δ(mm)	w/		各脚柱、ベースプレートを測定。	δ 脚柱 ベースブレート	10-3-3-3
						部材	ベースプ	孔の位置	±2	2	全数を測定。	<u>√</u> ∞8	10-3-3-3
							レート	孔の径d	0~	5	全数を測定。		
						仮組立		中心間隔、 長L(m)	±5···L≤1 ±10··· 10 < L≤ ± (10 + (L 10) ···20m<	0m 20m 20)/ <l< td=""><td>両端部及び片特はり部を測定。</td><td>L</td><td>10-3-3-3</td></l<>	両端部及び片特はり部を測定。	L	10-3-3-3
						時	一及で り	のキャンバ び柱の曲が ら(mm)	L/1	000	各主構の各格点を測定。	δ →	10-3-3-3
								の鉛直度 う (mm)	10…H H…H	i≦10	各柱及び片特ばり部を測定。 H:高さ (m)	Å H FINE	10-3-3-3
												<b>┴┴┴ ┴─ ┴┴</b>	

I -173

# 出来形管理基準及び規格値

								生生十人した	• 1 - 1 -		李15.11111
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	3橋梁下部	6橋台工	8		橋台躯体工		基 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋 支承便覧」による。	W2 W1 W2 W1	10-3-6-8
	司						厚 さ t	-20	なお、従来管理のほかに「3次元計 測技術を用いた出来形管理要領 (案)」で規定する出来形計測性能を 有する機器を用いることができる。 (アンカーボルト孔の鉛直度を除く)		
							天 端 幅 w <sub>1</sub> (橋軸方向)	-10	ただし、「3次元計測技術を用いた出 来形管理要領(案)」に基づき出来形 管理を実施する場合は、同要領に規定 する計測精度・計測密度を満たす計測	W <sub>2</sub> W <sub>1</sub> W <sub>2</sub> W <sub>1</sub>	
							天 端 幅 w <sub>2</sub> (橋軸方向)	-10	方法により出来形管理を実施すること ができる。		
							敷 幅 w3 (橋軸方向)	-50		・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	
							高 さ h <sub>1</sub>	-50			
							胸壁の高さ h2	-30		G L1	
							天 端 長 01	-50			
							敷 長 02	-50		中心線の変化 (a : 橋軸直角方向) (a 2 : 橋軸方向) a1	
							胸壁間距離 0	±30			
					(次頁に続く	)	支間長及び 中心線の変位	±50			

単位:mm

							山ハルロ	<b>空基华及び</b> 及			単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	浿	定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
					(前頁の続き)	支承部アンカ	計画高	+10~-20	支承部アンカーボルトの箱抜き規格値 の平面位置は沓座の中心ではなく、ア ンカーボルトの箱抜きの中心で測定。 アンカーボルト孔の鉛直度は箱抜きを 橋軸方向、橋軸直角方向で十字に切っ	平是位置 平展図 — : 実際 : 貸竹	
						ターボルトの箱	平面位置	±20	た2隅で計測。		
						抜き規格値	アンカーボルト 孔の鉛直度	1/50以下		アンカーボルト礼の知恵友 水送回 平送回 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	

#### I -175

## 出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工	種	測	定	項	B	規	格	値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	3橋梁下部	7 R C 橋 脚	9	1	橋脚躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)		基	準	高	$\nabla$		±20		橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。 なお、従来管理のほかに「3次元計		10-3-7-9
		Ĭ			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		厚		ż	t		-20		測技術を用いた出来形管理要領 (案)」で規定する出来形計測性能を 有する機器を用いることができる。 (アンカーボルト孔の鉛直度を除く)		
								端 (橋軸				-20		ただし、「3次元計測技術を用いた出 来形管理要領(案)」に基づき出来形 管理を実施する場合は、同要領に規定 する計測精度・計測密度を満たす計測 方法により出来形管理を実施すること	h t	
							敷	(橋軸		w <sub>2</sub>		-50		ができる。	#2 機関中心関系障 実限及	
							高		ŧ	h 1		-50				
							天	端	長	$\varrho_1$		-50			hi al	
							敷		長	$\varrho_2$		-50			中心級の変位 (a.1: 結婚政方均) (a.2: 結婚対向)	
							橋朋	中心	間距	<b>戸離 0</b>		±30			al	
					(次頁に続く)			間分線				±50			/ :1 \ /!!\	

単位:mm

							田水がら	<b>性基準及び及</b>			単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	浿	定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
					(前頁の続き)	支承部アン	計画高	+10~-20	支承部アンカーボルトの箱抜き規格値 の平面位置は沓座の中心ではなく、ア ンカーボルトの箱抜きの中心で測定。 アンカーボルトれの鉛直度は箱抜きを 橋軸方向、橋軸直角方向で十字に切っ	平面位置 平面図 — :実際	
						カーボルト	平面位置	±20	た2隅で計測。		
						の箱抜き規格値	アンカーボルト 孔の鉛直度	1/50以下		アンカーボルト刊の知恵京 : 決勝	

## I —177

# 出来形管理基準及び規格値

						田木ル日	理基件及びた	161G IE		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	3橋梁下部	7 RC橋脚工	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	基 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋 支承便覧」による。 なお、従来管理のほかに「3次元計測 技術を用いた出来形管理要領	, Wi	10-3-7-9
						厚 さt	-20	(業)」で規定する出来形計測性能を 有する機器を用いることができる。 (アンカーボルト孔の鉛直度を除く) ただし、「3次元計測技術を用いた出 来形管理要領(案)」に基づき出来形 管理を棄施する場合は、同要領に規定	h t	
						天 端 幅W1	-20	管理を実施する場合は、向要順に規定 する計測構度・計測器をを満たす計場 方法により出来形管理を実施すること ができる。	h t t	
						敷 幅w₂	-20		W2 W2 W2	
						高 さh	-50			
						長 さ0 <sub>2</sub>	-20		中心線の変位 (a 1:橋軸直角方向) (a 2:橋軸方向)	
						橋脚中心間距離@	±30			
					(次頁に続く)	支間長及び 中心線の変位	±50			

単位:mm

							H/\/\/	生卒年及びか	0 I H I I		平17.: mm
編	章	節	条	枝番	工種	浿	定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
					(前頁の続き)	支承部アン	計画高	+10~-20	支承部アンカーボルトの箱抜き規格値 の平面位置は各座の中心ではなく、ア ンカーボルトの箱抜きの中心で測定。 アンカーボルト孔の鈴直度は箱抜きを	平面位置 平面図 :	
						カーボルトの箱	平面位置	±20	協軸方向、橋軸直角方向で十字に切った2隅で計測。	<ul><li>⊕ ⊙</li><li>⊕ ⊙ ⊕</li></ul>	
						の箱抜き規格値	アンカーボルト 孔の鉛直度	1/50以下		アンカーボルト礼の知恵区 素剤 不高裕 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	

## I -179

#### 出来形管理基準及び規格値

						出来形官:	埋基準及び表	<b>兄恰但</b>		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道 路 編	3橋梁下部	8 鋼製橋脚工	9	1	橋脚フーチング工 (I型・T型)	基 準 高 ▽ w (橋軸方向) 高 さ h	±20 -50	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	₩ H + h	10-3-8-9
						長さり	-50		₩ ± h	
10 道路編	3橋梁下部	8鋼製橋脚	9	2	橋脚フーチングエ (門型)	基 準 高 ▽ 幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	r r	10-3-8-9
		I				高 さ h	-50			
									W2 W2	
10 道 路	3 橋梁	8 鋼製	10	1	橋脚架設工 (I型・T型)	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。		10-3-8-10
路編	下部	橋脚			( = 11 = 11)	橋脚中心間距離 Q	±30			
		エ				支 間 長 及 び 中心線の変位	±50		中心線の変位 (a1:橋軸直角方向)	
									(a 2:橋軸方向)	

単位:mm

							性を生及いた			単1⊻:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	3 橋梁	8 鋼製	10	2	橋脚架設工 (門型)	基 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。		10-3-8-10
編	下部	橋脚工				橋脚中心間距離0	±30		$\nabla$	
		Т.				支間長及び 中心線の変位	±50			
									中心線の変位 (a1:橋軸直角方向)(a2:橋軸方向)	
									21 22	
10 道 路	3 橋 梁	8 鋼製	11		現場継手工	現場継手部のすき間 δ1, δ2 (mm)	5 ※±5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材(裸使用)の場合		10-3-8-11
編	下部	表橋脚工								
10 道	4 鋼 橋	3 工場	9		橋梁用高欄製作工	部材 部材長0 (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$	図面の寸法表示箇所で測定。		10-4-3-9
路編	橋 上 部	場製作工								

#### I -181

#### 出来形管理基準及び規格値

						山木形官	'埋基準及ひた	兄们但		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工  種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道	4 鋼	5 鋼	10	1	支承工	据付け高さ 注1)	±5	支承全数を測定。 B:支承中心間隔 (m)		10-4-5-10
路編	橋上部	橋架設			(鋼製支承)	可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量以上	支承の平面寸法が300mm以下の場合は、 水平面の高低差を1mm以下とする。な		
		I				支承中心間隔	コンク リート橋 鋼橋	お、支承を勾配なりに据付ける場合を 除く。		
						(橋軸直角方向)	±5 ± (4+0.5 × (B-2))	注1)先固定の場合は、支承上面で測 定する。		
						水 橋軸方向 平	1/100	注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量δを考 慮して、移動可能量が道路橋支承便覧		
						度 橋軸直角方向 可動支承の橋		の規格値を満たすことを確認する。注 3) 可動支承の移動量検査は、架設完		
						明知文庫の情報 軸方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5	了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		
						可動支承の 機能確認 注3)	温度変化に伴う 移動量計算値の 1/2以上			
10 道	4 鋼	5 鋼	10	2	支承工	据付け高さ 注1)	±5	支承全数を測定。 B:支承中心間隔 (m)		10-4-5-10
路編	橋上部	橋架設			(ゴム支承)	可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量以上	上部構造部材下面とゴム支承面との接 触面及びゴム支承と台座モルタルとの		
		I				支承中心間隔	コンクリート 鋼橋	接触面に肌すきが無いことを確認。 支触の平面寸法が300mm以下の場合は、		
						(橋軸直角方向)	±5 ± (4+0.5 × (B-2))	水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を 除く。		
						水橋軸方向平	1/300	注1) 先固定の場合は、支承上面で測定 する。		
						度 橋軸直角方		注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量δを考		
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5	慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。注 3)可動支承の移動量検査は、架設完 了後に実施する。		
						可動支承の 機能確認 注3)	温度変化に伴う 移動量計算値の 1/2以上	詳細は、道路橋支承便覧参照。		

						出米形官	埋基準及び別	<b>見恰但</b>		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	4鋼橋上部	∞橋梁付属物	3		落橋防止装置工	アンカーボルト孔の 削孔長	設計値以上	全数測定		10-4-8-3
		ĩ				アンカーボルト定着長	-20以内 かつ-1D以内			
10 道路編	4 鋼 橋	8 橋梁付	5		地覆工	地覆の幅w1	-10~+20	1 径間当たり両端と中央部の 3 ヶ所測 定。	$\mathbf{w}_1 \qquad \mathbf{w}_2$	10-4-8-5
編	上部	属物				地覆の高さh	-10~+20		h	
		工				有効幅員w2	0~+30			
10 道 路	4 鋼 橋	8 橋梁	6 7		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	天 端 幅w1	-5~+10	1径間当たり両端と中央部の3ヶ所測 定。	9	10-4-8-6 10-4-8-7
編	上部	付属物工				地覆の幅w2	-10~+20		h 1	
		工				高 さhュ	-20~+30			
						高 さh <sub>2</sub>	-10~+20		W2 W1 W3	
						有 効 幅 員w₃	0~+30			
									h1	

I -183

## 中 本 形 答 珊 甘 淮 乃 バ 押 枚 値

						出来形管	理基準及び規	見格値		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道 路 編	4鋼橋上部	8橋梁付属物工	8		検査路工	幅高さ	±3 ±4	1ブロックを抽出して測定。		10-4-8-8
		Т.								
10 道路編	5コンクリー	6プレビーム	2		プレビーム桁製作工 (現場)	幅 w 高 さ h	±5 10 -5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央 部の3ヶ所とする。	h	10-5-6-2
	- ト橋上部	I				桁長のスパン長	&<15…±10 &≥15… ± (ℓ-5) かつ-30mm以 内	0: スパン長	w w	
						軸方向最大タワミ	0.80			
10 道路編	6 トンネル (NATM)	4支保工	3		吹付工		上。ただし、良 好な岩盤で施工 端部、突出部等 の特殊な箇所は	注)良好な岩盤とは、「道路トンネル 技術基準(構造編)・同解説」にいう 地盤等級A又はBに該当する地盤とす	(2) (1) C (3) 寝エコンクリート 吹付コンクリート (4) s.L. (6) (7) インバート	10-6-4-3

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項	目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	6トンネ	4 支保工	4		ロックボルト工	位 置 間	隔	-	施工延長40m毎に断面全本数検測。		10-6-4-4
	N A					角	度	_			
	T M					削孔深	ż	_			
						孔	径	-			
						突 出	量	プレート下面 から10cm以内			

## I -185

#### 出来形管理基準及び規格値

							田	米市	沙官均	里基:	準及び別	R.俗但	単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測	定	項目	1	規	格 値	測定基準 測定箇所	摘要
10 道路編	6トンネ	5 覆 工	3		覆エコンクリートエ	基準高	<b>∜</b> ∇	(拱頂)			±50	(1) 基準高、幅、高さは、施工40m につき1ヶ所。 (2)厚さ (イ)コンクリート打設前の券立空間を	10-6-5-3
	N N					幅w	(4	全幅)			-50	1 打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。	
	A T M					高さ	h (	内法)			-50	(で) コンクリート打設後、覆エコンク リートについて1 打設長の端面 施工 継手の位置) において、図に示す各点	
	Ú					厚		t		設計	計値以上	の巻厚測定を行う。 (ハ)検測孔による巻厚の測定は図の	
						延		長 L	_		_	(1)は40mに1ヶ所、(2)~(3)は100m に1ヶ所の割合で行う。	
												なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2 ケ所以上の検測孔による測定を行う。ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。 なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の指付け時には安定が確認されている場合。 ・異常土圧によるで確認されている場合。 ・調アーチ支保工、ロックボルトの突出。 計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることが出来る。	

単位:mm

								山	米形官	垤埜	华及	L UV Z	<b>元</b> 俗但		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	ß	則反	定項	頁 目	規	格	値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	6 トンネル (N A T M)	5 覆工	5		床版コンクリートエ		幅	•	w Ž t		-50 -30		施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。		10-6-5-5
10 道路編	6 トンネル (N A T M)	6インバートエ	4		インパート本体工		福 V		全幅) さ t 長 L	設	—50 計値以 —		(1)幅は、施工40mにつき1ヶ所。 (2)厚さ (イ)コンクリート打設前の巻立空間を 1打設長の中間と終点を図に示す各点 で測定。 (ロ)コンクリート打設後、インバートコ ンクリートについて1打設長の端面 (施工継手の位置)において、図に示 す各点の巻厚測定を行う。	GL S. It.	10-6-6-4
10 道路編	6 トンネル (NATM)	8坑門工	4		坑門本体工	高 さ h	基幅	h < h ≧	f, w <sub>2</sub> (3m ≥3m ÆL		±50  -30  -50  -100  -200		図面の主要寸法表示箇所で測定。	h W <sub>1</sub> W <sub>2</sub> W <sub>2</sub>	10-6-8-4

I -187

# **出来形管理其淮及八相**格值

						出米形官	理基準及び規	見格値		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	6 トンネ	8 坑門工	5		明り巻工	基準高▽(拱頂)	±50	基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長40mにつき1ヶ所を測定。 なお、厚さについては図に示す各点①	t 👃	10-6-8-5
4980	N A					幅 w(全幅)	-50	~⑩において、厚さの測定を行う。	hw	
	T M					高さh (内法)	-50		2 P 3	
						厚 さ t	-20		アーチ部) 60%60%	
						延 長 L	_		④ (側壁部) (側壁部) (インバート部)	
- 10					YE LE LOVIE ALL Y			TO THE SECOND SECTION OF THE SECTION		10 11 0 0
10 道 路	11 共 同	6 現場	2		現場打躯体工	基 準 高 ▽	±30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表 示箇所で測定。		10-11-6-2
編	溝	打構				厚 さ t	-20		<u> </u>	
		築工				内空幅 w	-30		twtwtwtwt	
						内空高 h	±30			
						ブロック長 L	-50		h h h h	

単位: mm

								- T		十八い	201H II		學1近:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測	定項	[ 目	規	格 値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
10 道 路 編	11 共同	6 現場	4		カラー継手工	厚	ŧ	t		-20	図面の寸法表示箇所で測定。		10-11-6-4
編	溝	打構築工				幅		w		-20		t L	
		I				長	څ	L		-20			
												w	
10 道路編	11 共同	6 現場打	5	1	防水工 (防水)	幅		w	設	計値以上	両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂 版で測定。		10-11-6-5
形田	件	7 構築工									-	k_w	
10	11	6	5	2	防水工						両端・施工継手箇所の「四隅」で測		10-11-6-5
道路編	共同溝	現場打	Э	2	(防水保護工)	厚	ż	t	設	計値以上	定。	t 1	10-11-6-5
		構築工										ı	
10	11	6	5	3	防水工						図面の寸法表示箇所で測定。		10-11-6-5
道路	共同	現場			(防水壁)	高	さ	h		-20		→	
編	溝	打構築				幅		w		±50	_	h	
		工				厚	ż	t		-20		w	

I -189

#### 出来形管理基準及び規格値

							Ĺ	山木	11万日:	<b>垤</b> 基	华双	いガ	<b>记俗</b> 但		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測	定	項	目	規	格	値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	11 共同 溝	7プレキャスト構?	2		プレキャスト駆体工	基	準	高	$\nabla$		±30		施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下の ものは1施工箇所につき2ヶ所。ただし、基 準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用す る。		10-11-7-2
		築工				延		長	L		-200		延長: 1 施工箇所毎		
10 道 路	12 電 線	5 電線	2		管路工 (管路部)	埋	設	深	t	0	~+50		接続部(地上機器部)間毎に 1 ヶ所。	AND THE PROPERTY OF THE PROPER	10-12-5-2
編	共同溝	共同溝工				延		長	L		-200		接続部(地上機器部)間毎で全数。 【管路センターで測定】		
														按統部 接続部 (地上機器部) (地上機器部)	
10 道路編	12 電線共同溝	5電線共同溝工	3		プレキャストボックス 工 (特殊部)		準	高	$\nabla$		±30		接続部(地上機器部)間毎に1ヶ所。		10-12-5-3

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測	定	項	田	規	格	値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道 路	12 電 線	6 付 帯	2		ハンドホー	ルエ	基	準	高	$\nabla$		±30		1ヶ所毎 ※は現場打部分のある場合	t <sub>3</sub> <b>—</b>	10-12-6-2
編	共同溝	設備工					※厚	: <b>†</b> 1	t 1~	t 5		-20			w <sub>1</sub>	
							※幅	i	w <sub>1,</sub> w	W 2		-30			$\begin{array}{c c} t_1 & w_2 & t_2 \\ \hline & h_2 & \end{array}$	
							※高	i ż	h 1, h	n <sub>2</sub>		-30			h <sub>1</sub> t <sub>5</sub>	

## I -191

#### 山 本 形 答 理 其 淮 乃 バ 担 攻 値

							Ė	11米形官埋	<b>基準及び規</b> 格	51但		単位:mm
								規格	値			
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	個々測定値 (X)	測定値の平均 (X)	測定基準	測定簡所	摘要
10 道 路	14 道 路	4 舗 装	5	1	切削オーバー	ーレイエ	厚 さ t (切削)	-7	-2	厚さは40m毎に「現舗装高と切削後の 基準高の差」「切削後の基準高とオー バーレイ後の基準高の差」で算出す	е 	10-14-4-5
編	持	I					厚 さ t (オーバー レイ)	-	-9	る。 測定点は車道中心線、車道端及びその 中心とする。	T TO THE TOTAL TOT	
							幅 w	-	25	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 延長80m未満の場合は、2ヶ所/施工 箇所とする。	現舗装 w	
							延長L	-	100	断面状況で、間隔、測点数を変えるこ とが出来る。		
							平坦性	I	3mプロフィルメ ーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下	「3次元計測技術を用いた出来形管理要額(案)」の規定による測点の管理 方法を用いることができる。	維持工事においては、平坦性の項目 を省略することが出来る。	
10 道路編	14 道路維持	4舗装工	5	2	切削オーバー (面管理の 厚さtまた (切削) の	場合) は標高較差	厚さ t (標高較差) (切削)	-17 (17) (面管理として 緩和)	-2 (2)	1. 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合に適用する。	ę. I	10-14-4-5
	持						厚さ t	板和)		2. 計測は切削面の全面とし、すべて の点で設計面との厚さtまたは標高較 差(切削)を算出する。計測密度は1	· +	
							(オーバー レイ)	-	-9	点/㎡(平面投影面積当たり)以上と する。	現舗装 w	
							幅 w	_	-25	3. 厚さ t または標高較差 (切削) は、現舗装高と切削後の基準高との差 で算出する。	維持工事においては、平坦性の項目 を省略することが出来る。	
							延長L	-	100	4. 厚さ (オーバーレイ) は40m毎に 「切削後の基準高とオーバーレイ後の		
									3mプロフィルメ ーター	基準高の差」で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその		
							平坦性	_	(σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下	5. 幅は、延長80m毎に1ヶ所の割と し、延長80m未満の場合は、2ヶ所/ 施工箇所とする。 脚面状況で、間隔、測点数を変えるこ とが出来る。		

単位:mm

								17(7) D -12	5年及いが1			平177.: mm
黑	啦	節	条	枝番	工	種	測定項目	規格 個々の 測定値 (X)	値 測定値の平均 (X)	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	14道路維持	4舗装工	7		路上再生工		厚t B盤 W 延L	-	30	幅は延長80m毎に1ヶ所の割で測定。 厚さは、各車線200m毎に左右両端及 び中央の3点を掘り起こして測定。	€	10-14-4-7

I -193

出来形管理基準及び規格値

	山木形官垤基华及び規格値										単位:mm
編	中	節	条	枝番	工  種	測定項目	規 格 値	測定	基準 トラス・アーチ等	測定箇所	摘要
10 道路編	16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 1	3 工場製作工				7ランンジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)			各支点及び各支間 中央付近を測定。 構造別に、5部材に つき1個抜き取った 部材の中央付近を測 定。	トラス弦材	10-16-3-4
						フランジの直角度 δ (num)	w/200	主桁	各支点及び各支間 中央付近を測定。	ν/2	10-16-3-4
									圧縮材の曲がり δ (mm)	e/1000	_

	山木形官垤峚华及び风俗但										
編	章	節	条	枝番	工種	測定	項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	16 道路修繕	22橋梁付属物工			橋梁耐震補強工 (落 橋防止装置工)	前孔長 定着長		設計値以上	全数 (曲がらない定規による測定)		
								設計値-20又は 1D(アンカー 径)のいずれ か小さい値	全数 (超音波探傷機による測定)		
3 土木工事共	2 一般施工	3 共通的工			小段排水工	厚さ	t	-20	施工延長40mにつき1箇所、施工 延長40m以下のものは1施工箇所 につき2箇所。	)m以下のものは1施工箇所 w2	3-2-3-29-2 側溝工(場 所打水路 工)に準拠
井通編		種				幅	w 1 w 2	-30		w 2 w 2	
3 土 木 工	2 一般施工	3 共通的工種	÷ 1		縦排水工	厚さ	t	-20	施工延長40mにつき1箇所、施工 延長40m以下のものは1施工箇所 につき2箇所。	<u>₩1</u>	3-2-3-29-2 側溝工(場 所打水路 工)に準拠
事共通編						幅	w 1 w 2	-30		t i	工/ 化华地
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種			張コンクリートエ	厚さ	t	-20	施工延長40mにつき1箇所、施工延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。	<b></b>	3-2-3-29-2 側溝工(場 所打水路 工)に準拠